

本論文は、連歌の古注釈について、その生成と展開に焦点を当てて考察したものである。

連歌自体が隆盛を誇り、かつ様々な作品に古注釈が付された宗祇門流の時代を考察の対象とした。連歌古注釈の特質と具体的な事例を有機的に結びつけ、体系的に連歌と注釈の有り様を叙述することを目指した。

本論文は、5つの章（序章・第1～3章・終章）によって構成されている。

序章では、先行研究をまとめ、具体的な考察の進め方について連歌注釈の特質と関連付けて述べた。

以下、連歌自体の特質と注釈の関わり（第1章）、連歌注釈の読者への指導（第2章）、連歌注釈の成立事情（第2章・第3章）、連歌師の活動と門弟との関わり（第3章）という4つの観点から考察を進めた。

第1章では、付合理解の問題について、古注釈の形式と句解の方法から考察した。その過程で実作との関わりについても検討した。具体的には、二句の付合単位ではなく付句「一句」に注目させる注釈方法から、古注の目指す付合理解の方法について論じた。連歌は付合によって成り立ち、座の中で句を付けていくことを要請するという性格を持つため、その連歌の注釈にも、当座で句を詠作するために必要な視座を養成する、実践的・実用的な機能が見られることを示した。実作のための、付合からさらに一句を切り出して解釈するという連歌理解の方法を明らかにすることができ、連歌の当座性と密接に関わる注釈の在り方を確認できた。

第2章では、句集の注釈によって連歌巧者の句について学ぶということについて考察した。注釈の、読者に対して連歌や和歌の知識を提供する姿勢、句集とその注釈が門弟の手によって生成される過程について明らかにした。第1節では連歌師肖柏の句集『春夢草』の第一種注と第三種注に着目し、注者は未詳で注釈同士の関係は不詳とされてきたが、比較によって二つの注の間に共通の執筆資料が存在することを指摘した。一種注には肖柏句を称揚する注や、前句の付け所を指摘して付合理解を促す注が特徴として見え、三種注には参考歌を挙げて付合と共に和歌の知識も身に付けさせようとする注が特徴として見られた。同じ句集に対しての注で、同じ執筆資料を用いていても、注者の対読者意識・目的によって注釈の記述に差が見られ、教材としての注釈の在り方が一定ではなく、注者と読者の位相によって異なるということが分かった。

第2節では、宗牧の句を集めた『孤竹』の成立について考察した。まず門弟が、宗牧からの直接の聞書や、他の門弟の聞書、小句集・句の抜書などを収集し、聞書等の資料の無い句は自身で付注し、句集の形にまとめている、ということを確認した。また、注釈の記述からは、その注者（門弟）の、宗牧の談話や聞書をなるべくそのまま保持しようとする姿勢が読み取れた。注釈の記述を分析し、執筆資料を収集し、注の付された句集を作ろうとする熱心な門弟の姿勢と、実作を念頭に置き、具体的実践的に連歌について指導する宗牧の姿勢を確認した。門弟の手によって師の句集・注が成立する、という図式は珍しくないが、第1節で推定した注釈の執筆資料の存在が、この『孤竹』においては、複数の聞書、句の抜書、宗牧とやりとりした書簡等の具体的な形で存在したことが読み取れて、句集の注釈の生成を考える上で貴重である。

連歌師が初学者・連歌学習者・門弟に、求めに応じて自身の作品の注釈を与えるというシンプル

な関係だったものが、その連歌師の門弟間での聞書等の共有や、連歌師の門弟がさらに別の初学者・連歌学習者・自身の門弟へと注釈を与える等の動きによって、注釈対象も注釈の内容も拡がりを持つことが確認できた。注釈を通した連歌の指導の内容が実用的かつ実践的であるということを第1章・第2章を通じて確認し、連歌に参加するための知識やノウハウに対する需要の存在を指摘した。

第3章では、連歌師宗牧の百韻注の性格を成立時期と付注作品の性質から3つに分類し、一人の連歌師の活動の中でも、その地位や環境に応じて、先達の作品の注から自身が参加した作品の注へ、そして独吟注へと、人々に求められて与える百韻注の性格が移り変わっていることを指摘した。宗牧の地位上昇と活動状況の変化により、人々の需要と注釈の在り方にも変化が見られるというのは、連歌古注釈の注目すべき展開だと考える。

終章では、第1～3章の考察をまとめ、結論と今後の展望を述べた。

以上、本論文では、連歌古注釈が実作と密接に関わるもので、人々の需要の変化・拡大に対応してその在り方を展開させていることを指摘した。宗祇の門流が活躍した時代に、注釈によって連歌を学習・教育するという営為が普及し、多様な注釈が人々に必要とされ、作られていったが、そこには連歌の活況と連歌師やその門弟の活動が密接に結びついていたということを明らかにした。連歌古注釈の特質と関連付け、その生成・展開について新たな知見を提供できたと考える。